



## 情報得ようと

## 過敏に反応

## 脳と耳鳴り

医者というのは、頭が多少悪くてもつとまる。体力、気力のほうが大事だ。そして、なにより我慢強くなければならない。

76歳のFさん。軽い認知症の患者さんだ。難聴も強く、会話に一苦労する。今日は、「この頃、耳鳴りがひどい。ジージー、ピーピーと、うるさくて夜も眠れない。なんとかならんか」と、大きな声だ。

耳鳴りの原因で一番多いのは、内耳の病気である。耳が聞こえにくくなり、耳鳴りがしてくる。急に難聴や耳鳴りが起きたら、すぐにでも耳鼻科を受診しないといけない。慢性化すると、治るものも治らなくなる。で、Fさんは、耳鼻科にも通院し

ているのだ。が、「補聴器なんか、クソの役にも立たんワイ」と、八つ当たりする。でも、耳鳴りはワッシーの専門外だ。確かに、脳腫瘍が耳鳴りの原因ということはある。が、Fさんには腫瘍なんてない。

もっとも、脳と耳鳴りとの関係は深い。原因が何であれ聴力が落ちると、脳へ伝わる音の情報が減ると、脳は少しでも音をとりえようと感度をあげる。聞こえないことを補つために脳は過度に反応する。で、「音が鳴っている」と勘違いする。それが耳鳴りだ。

この脳の過度な反応は、精神的な要因によっても強まる。耳鳴りがどうして起きるか良く分からないと、不安になる。ストレスもたまると、不安やストレスが強いと、もっと耳からも情報を得なければと、脳はより過敏になる。さらに、認知症では、感情の抑制ができていくと、そのため、脳が興奮しやすく、耳鳴りも強くなるというわけだ。

「耳鼻科の治療を続けるように」。「耳鳴りは、そのうち治る。気にしない」と、ワッシーも大声になる。毎回、同じことを言う。で、いよいよか疲れてきた。なんか耳鳴りがするよつな気がする。年のせい？

(石黒修三 いしぐろクリニック  
・脳神経外科専門医、金沢市在住、  
射水市出身)



イラスト・野畑桃花